

## (17) キャベツ

### ア 各病害虫の防除

株腐病

菌核病

根朽病

根こぶ病

べと病

黒腐病

軟腐病

アオムシ

アブラムシ類

オオタバコガ

コナガ

ダイコンシンクイ(ハイマダラノメイガ)

ネキリムシ類

ハスモンヨトウ

ナメクジ、カタツムリ類

ヨトウムシ

## ア 各病害虫の防除

### 【留意事項】

(□は総合防除計画に掲載している病害虫)

- ・濡れの悪い作物については、[農薬安全使用に関する参考資料の章の「展着剤の分類とその機能」](#)を参照し、展着剤を加用する。

### 株腐病

---

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 薬剤のいずれかを散布する。

### 菌核病

---

(予防に関する措置)

- 1 あぶらな科植物、ナス科植物、ウリ科植物などに感染する多犯性の病害である。宿主植物の連作及び輪作を避ける。
- 2 多湿条件で発生が増えるため、密植を避け、風通しを良くし、過湿状態にならないようにする。
- 3 発病を助長するため、窒素過多を避ける。
- 4 菌核は好気的な環境では長期間生存するため、田畑輪換や夏季の湛水処理により、菌核を死滅させる。
- 5 天地返し等で菌核を土中深くに埋め込む。

(判断、防除に関する措置)

- 1 菌核は土壌中に長期間残るため、発病株を早期に抜き取り、ほ場外で適切に処分する。
- 2 発生予察情報を参考に、前年の発生状況や本年の気象等(低温高湿度)から発生が多くなると予想される場合には、ほ場の見回り等による発病株の早期発見に努め、結球開始期から薬剤散布等を実施する。
- 3 土壌接地面から感染するため、地際部を重点的に、薬剤散布を実施する。
- 4 次作への持ち越しを避けるため、作物残さを適切に処分する。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 セル形成育苗トレイまたはペーパーポット苗の場合は、育苗期に薬剤をかん注する。
  - 2 結球開始期から10日おきに、薬剤を株元にもよくかかるように散布する。
- ※メジャーフロアブルは幼苗期に薬害が出ることがあるので使用を避ける。
- 3 葉の撥水性が高いため、展着剤を使用する。

### 根朽病

---

(耕種的・物理的防除)

- 1 作物の地際部を傷つけないようにする。
  - 2 発病株は抜き取り、ほ場外に埋め込む。
- ※苗に雨を当てないようにする。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 薬剤を散布する。

### 根こぶ病

---

- ・[共通防除の章の資材・苗床・本ぼの消毒の項](#)および[根こぶ病菌によるあぶらな科野菜根こぶ病の防除の項](#)を参照する。

(耕種的・物理的防除)

- 1 作物多発するほ場では早植えしない(10月下旬以降にする)。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

### べと病

---

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 発病初期から7～10日おきに、薬剤を2～3回散布する。
- ※メジャーフロアブルは幼苗期に薬害が出ることがあるので使用を避ける。

**黒腐病**

## (予防に関する措置)

- 1 本病は種子伝染するため、自家採種の場合は種子消毒を行う、又は消毒済の種子を購入する。
  - 2 長雨によって大発生するため、雨よけ施設で育苗する。
  - 3 あぶらな科作物の連作を避ける。
  - 4 地下水位の高いほ場や水はけの悪いほ場では、ほ場の排水を良好に保ち、過湿状態にならないようにする。
  - 5 抵抗性品種を使用する。
  - 6 窒素過多を避ける。
  - 7 食害痕からの侵入を防ぐため、害虫の防除も徹底する。
  - 8 中耕作業によって生じる傷口は病原菌の侵入口となることから、発生ほ場では中耕作業を控え、又は株際の中耕作業を避け、植物体をなるべく傷つけないよう留意する。
- ※葉先の水孔や傷口から侵入する。  
 ※晩秋雨の多いときに結球するような場合に多く発生する。

## (判断、防除に関する措置)

- 1 発病株を早期に抜き取り、ほ場外で適切に処分する。
- 2 発生予察情報を参考に、ほ場の見回り等による発病株の早期発見に努め、適期に薬剤散布等を実施する。
- 3 降雨が予想される場合、又は強風雨等で傷が付いた場合には、薬剤散布を実施する。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 微生物殺菌剤
- 2 結球始めころから2週間間隔で3回程度薬剤を展着剤を加えて散布する。
- 3 キャベツ黒腐病に対して、風雨前の銅水和剤、カスガマイミン・銅水和剤の散布は、風雨後の散布に比べ防除効果が高い(令和7年度試験研究成果普及情報)。
- 4 銅水和剤は降雨の影響を受けにくく、台風前に散布すれば、台風後に再散布の必要性は低い(令和7年度試験研究成果普及情報)。

**軟腐病**

## (耕種的・物理的防除)

- 1 3～4年間イネ科、まめ科の作物を作付ける。
- 2 降雨直後に農作業をしない。
- 3 発病株は見つけ次第取り除く。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 微生物殺菌剤
- 2 発病が予想される時は薬剤を7～10日おきに散布する。
- 3 根や地際を害する害虫(キスジノミハムシ、ナメクジ、線虫など)を防除しておく。

**アオムシ**

## (予防に関する措置)

- 1 育苗期における苗への産卵を避けるために、育苗床を防虫ネット等により被覆する。
- 2 ヘアリーベッチ、大麦等を使用したリビングマルチの活用により、土着天敵の定着を促進し、密度抑制を図る。
- 3 あぶらな科植物で増殖するため、ほ場周辺の雑草(特にあぶらな科雑草)の防除に努める。

## (判断、防除に関する措置)

- 1 発生予察情報、ほ場の見回り等に基づき、若齢幼虫時に薬剤散布等を実施する。
- ※一般的に老齢幼虫ほど薬剤が効きにくい。
- 2 作物残さを適切に処分する。

(薬剤防除) [農薬登録情報【アオムシ】](#)

- 1 RACコード確認し、複数系統の薬剤を使用する。
- 2 生物農薬は予防的に散布する。

**アブラムシ類**

## (予防に関する措置)

- 1 育苗期における苗への産卵を避けるために、育苗床を防虫ネット等により被覆する。

- ほ場内及びその周辺の雑草の防除に努める。
- 有翅虫の飛来を防止するため、光反射資材によるマルチ若しくはシルバーテープ又は風上方向に防風垣若しくは防風ネットを設置する。

(判断、防除に関する措置)

- 発生予察情報を参考に、ほ場の見回り等による早期発見に努め、発生初期に薬剤散布等を実施する。
- 農薬を使用する場合には、同一系統の薬剤の連続使用を避け、異なる系統の薬剤によるローテーション散布を行う。さらに、地域内で薬剤抵抗性等が確認されている薬剤の使用判断については指導機関の指示に従う。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 生物農薬は予防的に散布する。
- 気門封鎖剤を散布する。
- 発生が予想される場合には、薬剤を散布する。

## オオタバコガ

(予防に関する措置)

- 育苗期における苗への産卵を避けるために、育苗床を防虫ネット等により被覆する。
- ほ場内及びその周辺の雑草の防除に努める。
- 交信かく乱剤を活用した防除を行う。(判断、防除に関する措置)
  - 発生予察情報を参考に、ほ場の見回り等による早期発見に努め、発生初期に薬剤散布等を実施する。
  - 結球野菜では、結球内部に食入した場合に防除が難しくなることから、結球前の防除を徹底する。
  - 作物残さを適切に処分する。
  - BT 剤を活用した防除を行う。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 発生が予想される場合には、薬剤を散布する。

## コナガ

(予防に関する措置)

- 育苗期における苗への産卵を避けるために、育苗床を防虫ネット等により被覆する。
  - ほ場内及びその周辺の雑草の防除に努める。
  - 交信かく乱剤を活用した防除を行う
- (判断、防除に関する措置)
- 卵や若齢幼虫が寄生している葉を見つけ次第、除去する。
  - 発生予察情報を参考に、ほ場の見回り等による早期発見に努め、発生初期に薬剤散布等を実施する。
  - 結球野菜では、結球前の防除を徹底する。
  - 作物残さを適切に処分する。
  - 生物農薬を活用した防除を行う。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 発生が予想される場合には、薬剤を散布する。
- コナガは薬剤抵抗性が発達しやすいので、農薬を使用する場合には、同一系統の薬剤の連続使用を避け、異なる系統の薬剤によるローテーション散布を行う。さらに、地域内で薬剤抵抗性等が確認されている薬剤の使用判断については指導機関の指示に従う。

## ダイコンシンクイ(ハイマダラノメイガ)

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 薬剤を施用(散布)する。

## ネキリムシ類

(耕種的・物理的防除)

- 被害株の地際にいる幼虫を捕殺する。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 薬剤を施用(散布)する。

## ハスモンヨトウ

・ [共通防除の章のハスモンヨトウの防除の項](#)を参照する。

(予防に関する措置)

- 1 育苗期における苗への産卵を避けるために、育苗床を防虫ネット等により被覆する。
- 2 ほ場内及びその周辺の雑草の防除に努める。
- 3 交信かく乱剤を活用した防除を行う。

(判断、防除に関する措置)

- 1 中齢幼虫以降になると薬剤の防除効果が著しく低下してしまうため、卵塊や若齢幼虫が群生している葉を見つけ次第、除去する。
- 2 発生予察情報を参考に、ほ場の見回り等による早期発見に努め、発生初期に薬剤散布等を実施する。
- 3 結球野菜では、結球内部に食入した場合に防除が難しくなることから、結球前の防除を徹底する。
- 4 農薬を使用する場合には、同一系統の薬剤の連続使用を避け、異なる系統の薬剤によるローテーション散布を行う。さらに、地域内で薬剤抵抗性等が確認されている薬剤の使用判断については指導機関の指示に従う。
- 5 生物農薬を活用した防除を行う。
- 6 作物残さを適切に処分する。
- 7 常発地ではフェロモントラップを設置するなどして発生消長を確認しながら幼虫の防除を行う。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 若齢幼虫のうちに、薬剤を散布する。

## ナメクジ、カタツムリ類

(耕種的・物理的防除)

- 1 野菜くずの捨て場等の発生源を除去する。
- 2 ほ場の通風や排水を良好にし、地表部を乾燥させる。
- 3 農作物の過繁茂を避け、収穫後の畑はできるだけ早期に整理する。
- 4 畑周辺の小かん木、小竹などの茂みを伐採整理し、不必要な石積等は取り除く。
- 5 畑周辺の清掃を図った上で、潜伏場所となるような濡れむしろ等を設置し、誘引捕殺する。

(薬剤防除) [農薬登録情報【ナメクジ】・【カタツムリ】](#)

- 1 粒剤は雨が降ると有効成分が流亡してしまうので、天候を見極めて活動直前の夕刻に処理する。ハウスや温室内では、2～3日間のはかん水がかからないようにする。残効期間は短い。

## ヨトウムシ

(予防に関する措置)

- 1 育苗期における苗への産卵を避けるために、育苗床を防虫ネット等により被覆する。
- 2 ほ場内及びその周辺の雑草の防除に努める。
- 3 交信かく乱剤を活用した防除を行う。

(判断、防除に関する措置)

- 1 中齢幼虫以降になると薬剤の防除効果が著しく低下してしまうため、卵塊や若齢幼虫が群生している葉を見つけ次第、除去する。
- 2 発生予察情報を参考に、ほ場の見回り等による早期発見に努め、発生初期に薬剤散布等を実施する。
- 3 結球野菜では、結球内部に食入した場合に防除が難しくなることから、結球前の防除を徹底する。
- 4 生物農薬を活用した防除を行う。
- 5 作物残さを適切に処分する。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 若齢幼虫のうちに、薬剤を散布する。